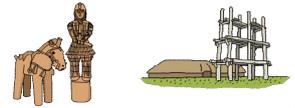


焼津市立黒石小学校

出前授業レポート



「**実物に触れる、実際に体験する活動ができ、良かったです！**」

焼津市立黒石小学校の6年生113人が、社会科の授業で、土器に触れたり古代の体験をしたりすることで、体験的に古代への知識を得るとともに、歴史学習への関心を高めることと、埋蔵文化財センターで働く人の仕事について話を聞くことで、職業や将来の夢について思いを深めることを目的に、主任の増田先生が計画して、発掘調査の話、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの4つの体験活動を行いました。

・「好きなことを仕事にしているんだなあと思った。」

発掘調査の話と職業講話

体育館で一斉に発掘調査の話と学校周辺の遺跡についての話をしました。子どもたちは

プロジェクターに映し出された普段では見られない発掘現場の画像を見ながら、熱心に説明を聞き、メモをとっていました。



土器の分類体験

縄文土器、弥生土器、須恵器の3つの完形土器を見ながら、実際

に発掘された土器片を3つに分類しました。縄文土器は厚さや質感の違いが分かりやすかったのですが、弥生土器と須恵器の特徴を見分けることが難しく、苦勞していました。説明を聞いた後は納得して分類できました。

・「土器によって色や厚さなど、特徴に違いがあることがわかった。」



石器の試し切り体験

打製石器や磨製石器の実物を見ながら、石の役割や使用方法を学びまし

た。その後、黒曜石で新聞紙や野菜を試し切りしました。切れ味が鋭く、石でも包丁の代わりになることを実感できました。金属がない時代の生活を想像しながら、石の大切さを感じていたようです。



火起こし体験

この日は、雨が強くなったり弱くな

ったりで、火起こしの条件としてはあいきくでしたが、体育館の軒下で行うことができました。火きり臼に雨が掛かり、火種が思うように出来ず苦勞しましたが、何とか火種を作り、火口にのせ息を吹きかけると火が大きくなり、喜んでいました。

・「舞いきり式は室町時代以降で、すごく昔ではないけれど、難しかった。」



増田先生の感想

「子どもたちが授業で学習したことについて、改めて説明を聞いたり体験したりすることで、考えが深まった子が多く見られました。実物に触れる、実際に体験する活動が多くでき、良かったです。また、楽しんで活動に取り組むことができました。体験の説明だけでなく、昔の人はどう使っていたかなど、詳しく説明をしていただいたので、子どもたちにとっても、とても勉強になったと思います。そして、「昔の人は大変だったんだな。」と、昔の人の生活を想像することにつながって考える子も見られました。」

・「昔の人の苦勞がわかった。」「今のような道具がないのに、昔の人はすごい。」

